

新品種「あのみのりパワー」を用いた 新たなナス青枯病対策

病害虫研究担当 小巻康平

ナス青枯病はナスの最重要病害です。今までの対策はクロルピクリンなどを用いた土壤消毒や抵抗性台木が主でした。土壤消毒は処理に労力やコストがかかり、抵抗性台木も感染を完全に防ぐことは難しいです。そのため、青枯病抵抗性を持つ穂木品種が求められていました。

「あのみのりパワー」は農研機構が育成した青枯病抵抗性を持つ穂木品種です。多収でとげなしの単為結果性ですが、「あのみのり」や「あのみのり2号」と比較すると、この単為結果性がやや劣るため、県内の主要な作型である普通露地作での実用性を評価しました。その結果、「あのみのりパワー」は高い青枯病抵抗性を持ち(図1・写真1)、収量性は「千両2号」と同等であることが明らかになりました(図2)、実用性が高いと考えました。

「あのみのりパワー」はネコブセンチュウ抵抗性がないため、実用場面では両病害虫に抵抗性を有する台木と接することで青枯病とネコブセンチュウを防ぐことが可能であると考えられます。

なお、「あのみのりパワー」は促成栽培では花数が極端に少なくなり、十分な収量を確保できないおそれがあるため、適しません。

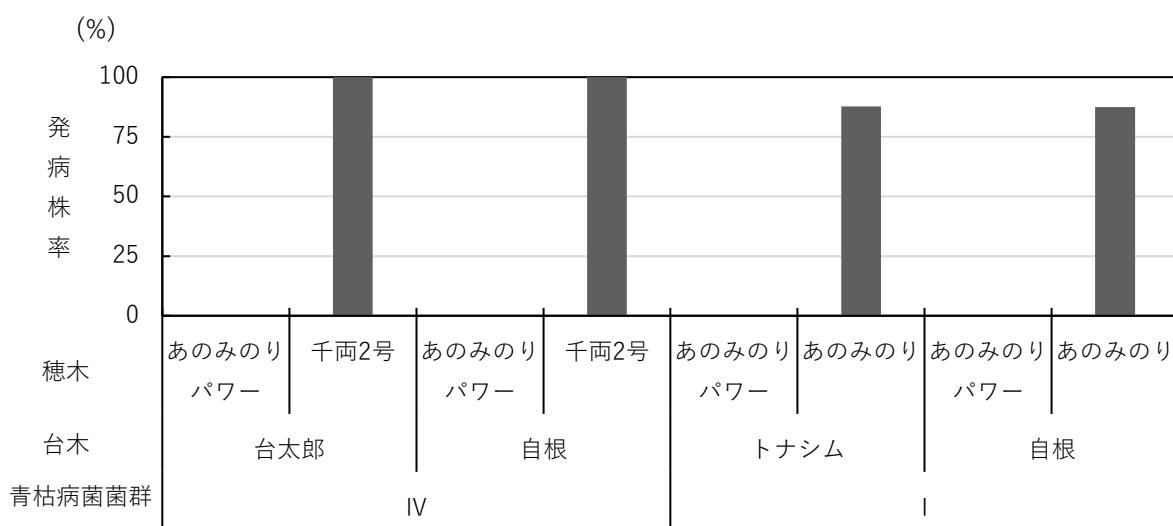


図1 穂木と台木の組み合わせによる青枯病発病株率

注)トナシムおよび台太郎は青枯病およびネコブセンチュウ抵抗性台木。

菌群によって犯す台木の種類が異なることが知られている。



写真1 青枯病汚染ほ場における試験の様子
(左:あのみのりパワー自根区 右:千両2号自根区)

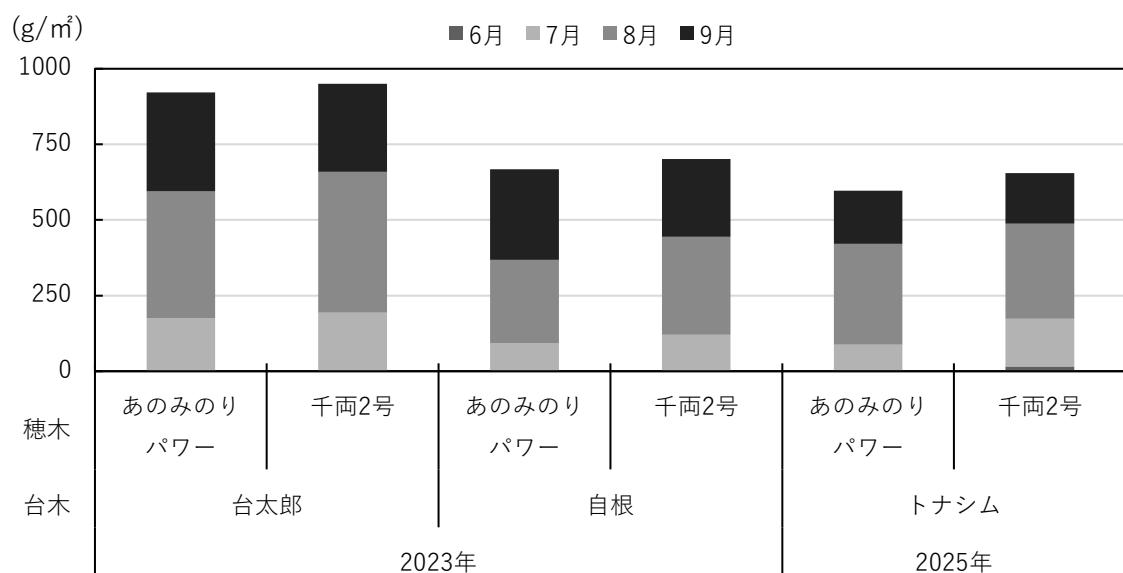


図2 穂木と台木の組合せによる上物収量の差

*本研究の一部は生研支援センター「食料安全保障強化に資する新品種開発」(JPJ012082)の支援を受けて行った。